【夏野菜の初期管理】

基本的な注意事項(復習ですが･･･)

◎夏野菜苗の購入・植え付けは急がない！

〇例年４月は天候が不順です。(寒暖の差が激しい！)

・野菜苗を買う時期は５月の連休まで待ちましょう！

・植え付けは連休以降でも充分間に合います。

〇夏野菜のふるさとは暖かい地方原産のものが多いです。

トマト：南米アンデス山系のペルー、エクアドル、ボリビアなど
赤道に近いところ

ナ　ス：インド東部

キュウリ：インド北部ヒマラヤ山脈の南側の山麓

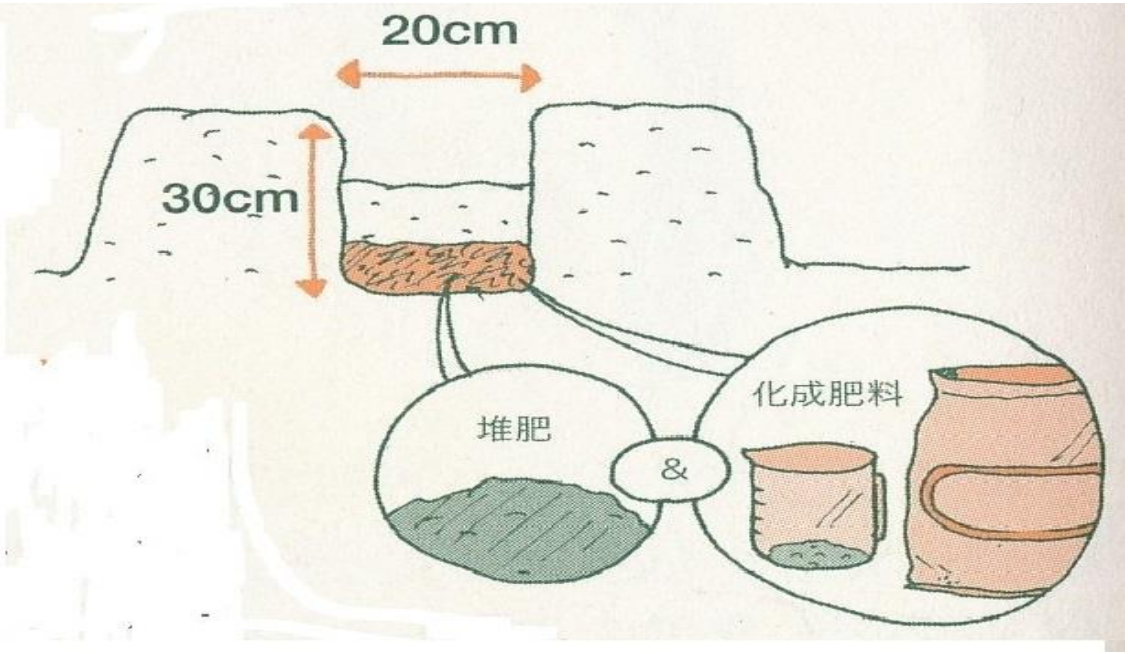
※５月になって、暖かくなってから、苗を植え付けると、土の温度も上がって、根もはやく元気になっていきます。早い時期に植えつけて失敗するより、暖かくなってから植えつける方が生育がよくなります。

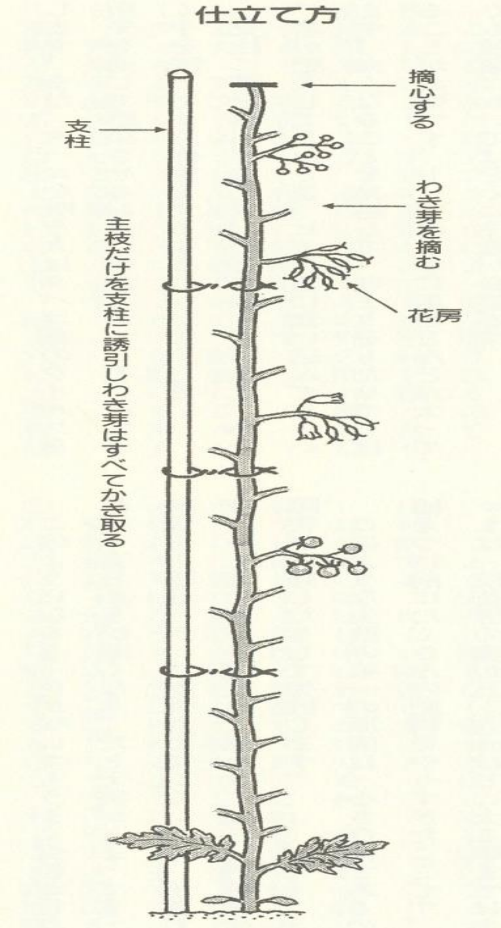
※植え付け時にバケツに水を張り、苗を浸けて底から給水させてから植え付けると活着がよくなる。
この場合、植え付けてから１週間は水をやらない。
野菜苗は水分が少なくなってくると、水のあるほうへ根を伸ばしていく。常に水をやっていると根が伸びない。

※土の中に水分がどれだけあるかを調べる目安は、
竹串を刺してみると一目瞭然！

トマト（ナス科）＜定植＞

特　　徴	原産地は南米のアンデス山系のペルー、エクアドル、ボリビア。 暖かくて日当たりがよく、水はけのよいところを好みます。
定植時期 収穫時期	５月上旬～中旬 ６月下旬～
土の準備	２週間前　苦土石灰：100g/㎡　　最適 pH：5.2-6.5 １週間前　発酵牛糞堆肥：３kg/㎡ 数日前　　化成肥料(8-8-8)：100g/㎡ 畝の高さ：20cm
定　　植	株間隔：40－50cm　苗は、茎が太くて節と節の間が短く、根張りがよいものを選ぶ。蕾がつき始めた苗が植え時。花房はすべて同じ側につくので同じ方向になるように植え付ける。 コンパニオンプランツとして植え穴にネギの仲間を一緒に植え付けておくと、立枯れ病にかかりにくくなる。 ※植え付け時にバケツに水を張り、苗を浸けて底から給水させてから植え付けると。活着がよくなる。
定植後の 管　　理	水 や り：植え付け後は根付くまでしっかり水をやる。 (上記※の植え付けをすると植え付け後１週間は水をやらない) 追　　肥：定植２週間後から１回 30g ずつ施す。 脇芽かき：植え付け後 10 日ほどで根付き、脇芽が出てくる。 原則として脇芽は摘み取り、原則一本仕立てにする。 支　柱：苗が伸びてくると 1.5－1.8mの支柱を立て、誘引する そ の 他：花房が５～6 段付いたら上の葉を２枚残して生長点を摘み取る(芯止め)
そ の 他	コンパニオンプランツとしてネギの仲間がある(ネギ、ニラ、ワケギなど)。ラッカセイといっしょに植える方法もある。





コンパニオンプランツ(ちょっとおもしろい)

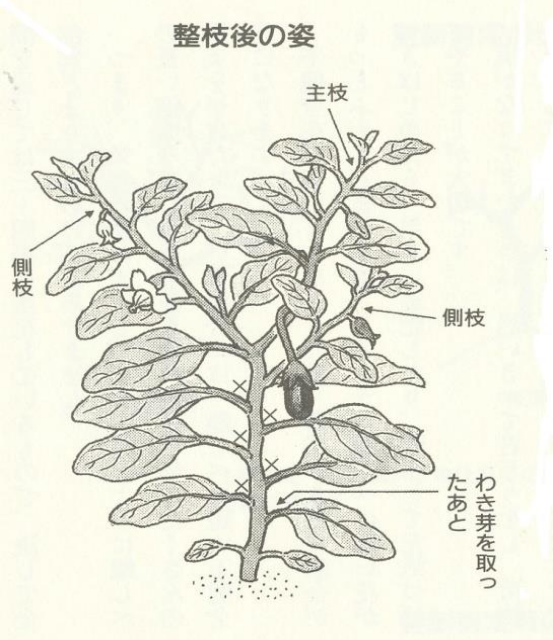
トマト×ラッカセイ(トマトと同じ南米高原原産)
- 夏の極端な乾燥を防ぐ。余分な水分をラッカセイが吸収する。
- 追肥をしなくてもラッカセイ(マメ科)が空気中の窒素固定をする
- 根の深さが違う(トマトは深根、ラッカセイは浅根)ので競合しない
- この場合トマトの株間を 60cm はとる。
  ラッカセイは日が当たるようにトマトの株間からずらして種をまく。

ナス（ナス科）

特　　徴	インド東部原産 日当たりがよく、水はけのよいところを好みます。肥料と水を多く必要としますが、うまく栽培すると、秋まで長期にわたり収穫できます。
定植時期	５月上～中旬が最適　　※苗を急いで植え付けない。５月中旬以降のほうが活着、初期生育が良い。 収穫は６月中旬～
土の準備	２週間前　耕起：20cm 苦土石灰　　：100g/㎡ 最適 pH　　：5.5-6.8 ２週間前　発酵牛糞堆肥　　：３～４kg/㎡ 数日前　　化成肥料(8-8-8)：200g/㎡ 畝の高さ：20cm
定　　植	株間隔：50cm 〇苗は本葉が５～６枚に育ったものを植え付ける。 (植え付け間隔が狭いと風通しが悪くなり、病気にかかりやすい)

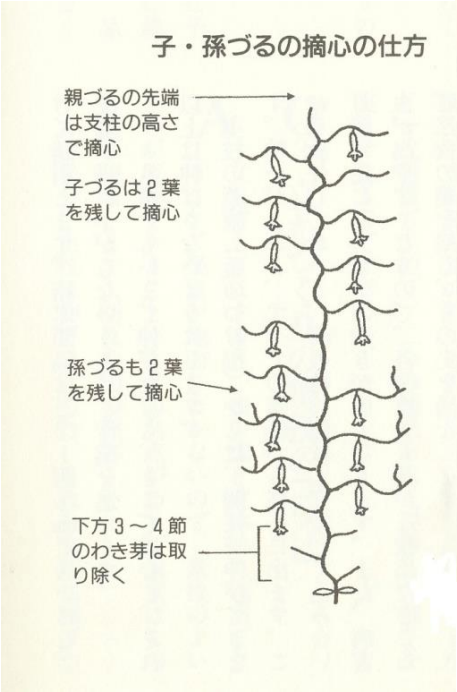
	○株元にネギの仲間(ネギ、ニラ、ワケギなど)を植えておくと、立枯れ病にかかりにくくなる(植え穴に一緒に植える)。
初期管理	水やり：定植後たっぷり、その後は乾いた時 追肥：植え付け後 15～２０日後(苗が活着)に化成肥料を 50g/㎡。 仕立てかた：本葉が８枚に育つと８枚目に一番花が咲き、脇芽が出る ・３本仕立ての場合：花のすぐ下と、もう一つ下の脇芽を残し、主枝と合わせて３本仕立てにする。それより下の脇芽は取り除く。この時支柱をする。 ・２本仕立ての場合：花のすぐ下の脇芽を残し、主枝と合わせて２本仕立てにする。それより下の脇芽は取り除く。この時支柱をする。
中間管理	追肥：苗がしっかり根付いたら週に１回液肥を与え(1000 倍程度)、肥切れしないようにする 敷きわら：支柱を立てた時に、乾燥や雨による土のはね返りを防ぐため、敷きわらなどをする。

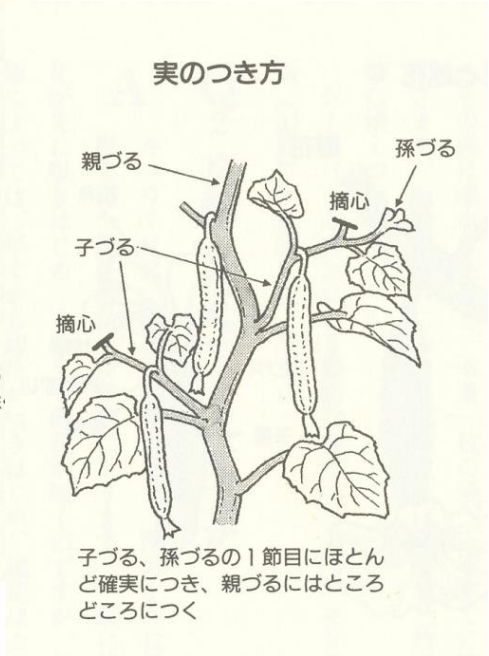
植え穴にニラかネギを一緒に植え付ける

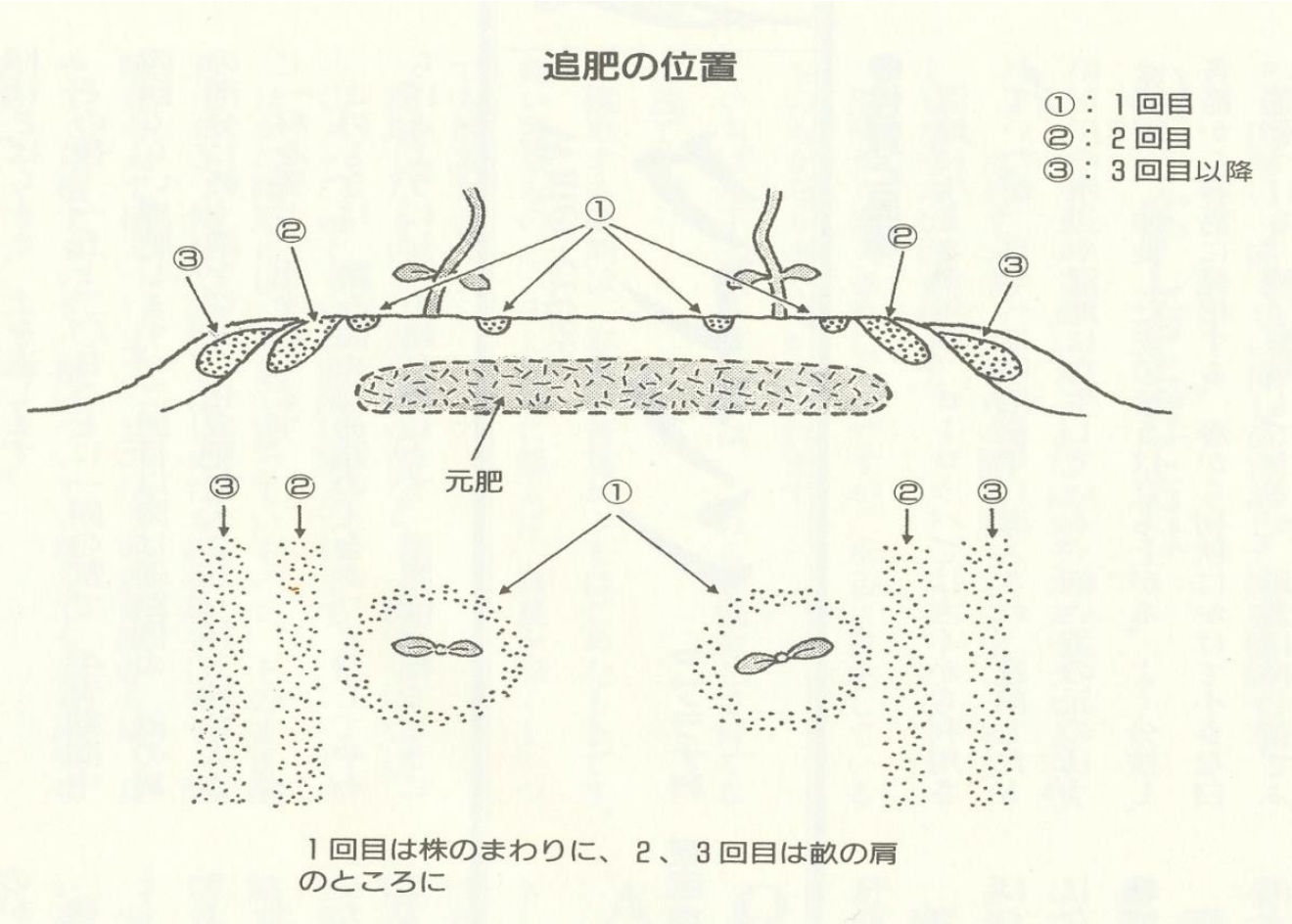


キュウリ（ウリ科）

特　　徴	キュウリの原産地はインド北部のヒマラヤ山脈の南部山麓といわれている。日当たりがよく、水はけのよいところを好む。
定植時期	5 月上旬が適期。 夏場に枯れ上がってくるので、収穫しているときに株の間に新しい種子を直まき(7月中)して、次に収穫するキュウリを育てておく。そうすると秋まで連続して収穫することができる。
土の準備	1 ヶ月～2 週間前　耕起：30cm 苦土石灰　　：100g/㎡ 最適 pH　　：5.5-6.5 1 週間前　発酵牛糞堆肥　　：3kg/㎡ 化成肥料(8-8-8)：100g/㎡ 畝の高さ：20cm
定　　植	株間隔：50～60cm 水遣り：定植後たっぷり、その後は乾いた時 病害予防に有効なコンパニオンプランツ ・ネギの仲間
初期管理 ～ 中間管理	・水やり キュウリは根の長さが2m ほどになるが、地表近くに浅く張る(浅根)。 水はけを良くするとともに、夏の高温乾燥期には敷きわらなどをして根が乾燥に合わないよう、丈夫に育てる。 ・追肥 一度に多くの肥料をやると「肥やけ」(濃度障害)を起こす。 ・支柱：株が大きくなってきたら支柱をする
病害	うどんこ病に注意：重曹の 1000 杯液を噴霧







簡単な施肥量の計り方

堆　　肥	スコップ１杯	約 2kg
苦土石灰	１握り	約 40g
化成肥料	１握り	約 30g
(その他)	１つまみ	約 2g